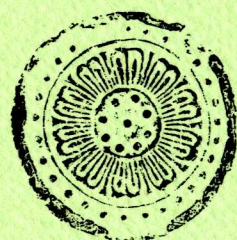


大分市歴史資料館年報

(平成5年度)



1994

はじめに

平成5年度(1993)の年報をお届けします。

学校週五日制の月1回(第2土曜日)の試行が、昨年度9月から行われるようになって約1年半が経過いたしました。当資料館としても、当日は子供無料(従来から市内小学生は無料)、親子の触れ合いをはかるということで親子無料開放を実施してきているところであります。当初は、親子入館者も多く見られましたが、一年以上経過いたしますと、その存在を知らない人も増えているようです。ぜひ、親子触れ合いの場として資料館の積極的利用を願っております。

さて、本年はポルトガル人が種子島に中国船で初めて来航して450年ということで、日本各地で各種行事が行われ、大分市内でもイベントが催されました。大分市(当時は府内)との歴史的関係でいえば、本格的に西洋文化に触れはじめたのは、それから8年後、大友宗麟が来日していたフランシスコ・ザビエルを府内に招いてからで、その450年となる2001年が記念すべき年に当たります。資料館としては、ぜひその前後に行事を計画したいと考えているところであります。

調査研究面では、柞原宮周辺を対象とした調査で、平安時代末期にさかのぼる仏像など貴重な資料の発見がありました。今後も「府内及び大友氏関係遺跡調査事業」として、調査研究を継続してゆきたいと考えております。

大分市の歴史を学び、資料の収集・保存・活用・研究をはかる施設として、職員一同努力しているところであります。市民の皆様の暖かい御理解と御支援をよろしく願いいたします。

1994年3月31日

館長 木村 幾多郎

目次

展 示	1
テーマ展示 特別展示	
講演記録	4
資料調査	7
教育普及活動	14
ふるさとの歴史講座 史跡見学会	
夏休みジュニア講座 陶芸講座 はた織り講座	
拓本講座 ミュージアム・シアター 刊行物	
博物館実習 資料の利用・貸出	
資料収集	17
図 書	22
資料館利用状況	30
管理及び運営	32
歴史資料館協議会 組織・職員	
予算 施設管理業務の内容	
施設の概要	34
条例・規則	36
日誌抄	42
利用案内	45

展 示

テーマ展示

所蔵品の中から常設展示できない優品や歴史的に貴重な資料を公開するため、年4回テーマごとに行う小企画展である。本年度は以下のとおり開催した。

第1回 江戸時代の美術

期間 4月29日～6月27日 会期中入館者数 4,938人

江戸時代に描かれた屏風絵・絵巻などを展示した。

展示資料

大織冠図屏風 六曲一双 江戸時代中期 大分市蔵
平成4年度後藤良子氏から大分市に寄贈していたもので、幸若舞「大織冠」から12場面を選び絵画化した屏風である。

巖島神社遊興図屏風 六曲一双 江戸時代初期

大分市指定文化財 首藤規行氏蔵 当館寄託

巖島神社本殿と門前町に集まる人々の風俗を描く。熊本藩主細川氏が参勤交代に使用していた御座船「波奈之丸」に積まれていたことから、「波奈之丸屏風」とも呼ばれている。

熊野権現縁起絵巻 13巻 江戸時代初期

大分市指定文化財 熊野神社蔵 当館寄託

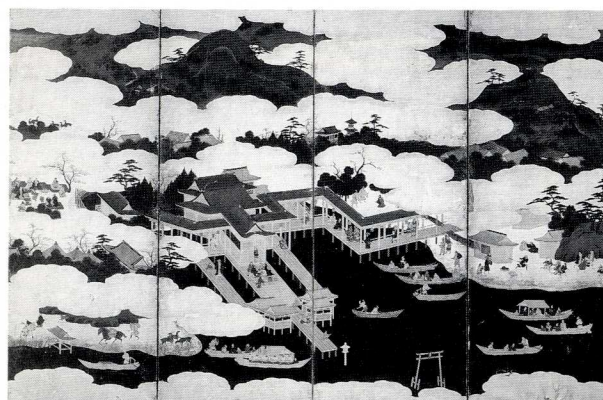
江戸時代初め、豊後へ流された元越前北庄城主松平忠直（一伯）が1628年津守（大分市）の熊野神社に寄進したと伝える絵巻。絵師は岩佐又兵衛と言われるがその影響を受けた工房の作とする説もある。

源氏物語絵 15面 桃山～江戸初期 当館蔵

源氏物語54巻から各巻一場面ずつを描く。もとは六曲一双の屏風であったが、現在は1場面ごとに額装されており、23面を所蔵している。

第2回 橋詰古銭コレクション

期間 7月3日～10月2日 会期中入館者数 4,060人



巖島神社遊興図屏風（右隻・部分）

平成4年に九州貨幣史学会会長橋詰武彦氏から寄贈された中国の古銭、奈良時代から現代まで日本の貨幣約180点を展示した。

展示資料

天保小判／和同開珎／中国の古銭26点／外来銭38点／江戸時代の貨幣18点／豊後の藩札24点／明治～昭和時代の貨幣36点／記念硬貨14点他（以上当館蔵）

第3回 南蛮文化とキリシタン

期間 12月4日～1月30日 会期中入館者数 1,758人

16世紀後半の日欧交流の成果を示す美術品と、その後のキリシタン弾圧の歴史を紹介した。

展示資料

ランタカ砲／花鳥文螺鈿蒔絵洋櫃／鮫皮貼螺鈿洋櫃／南蛮人図鏡／南蛮鐔／狩野内膳筆 南蛮屏風（模写 原資料神戸市立博物館）／キリシタン禁令高札／五榜の掲示／『イエズス会宣教師書簡集』／『キリスト教の勝利』／『日本の花束』／オルテリウス 東インド図・アジア図・タルタリア図／ティセラ 日本図（以上当館蔵）

第4回 古地図にみる大分

期間 2月5日～3月27日 会期中入館者数 2,470人

府内城下町や城郭、御殿を描いた江戸時代の絵図や明治から昭和前期に出版された大分市街地図を展示し街の変遷を紹介した。

展示資料

府内城諸櫓門図帖／府内城元東の丸御殿図（以上松栄神社蔵 当館寄託）／日根野時代府内藩領図／府内城下町絵図／明治～昭和前期の大分市街地図10点／大正初期大分写真帖（以上当館蔵）



南蛮人図鏡

資料収集

歴史資料館資料収集委員会

本年度より資料の収集を適正かつ円滑に行なうため大分市歴史資料館資料収集委員会を設置した。

1. 大分市歴史資料館資料取扱要綱（抄）
（収集委員会）

第12条 資料館の資料の収集を適正かつ円滑に行なうため、大分市歴史資料館資料収集委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

- 2 委員会は、次に掲げる事項について調査審議する。
 - (1) 資料の収集計画に関する事
 - (2) 購入しようとする資料に関する事項
 - (3) その他資料の収集に関し必要な事項

第13条 委員会の委員は、10名以内をもって組織し、次の各号に掲げる要件を満たす者のうちから、市長の意見を聞いて教育委員会が委嘱する。

- (1) 考古、歴史、民俗又は美術工芸等の部門において、学識経験を有する者
- (2) 購入しようとする資料について公正な判断ができる者

- 2 委員の任期は2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2. 会議

第1回 平成5年9月18日（土）

場所 大分市歴史資料館会議室

- 議題
- (1) 委員委嘱状交付
 - (2) 会長、副会長選出
 - (3) 購入予定資料についての審議
 - (4) その他

第2回 平成6年2月22日（火）

場所 大分市歴史資料館会議室

- 議題
- (1) 購入予定資料についての審議
 - (2) 今年度収集資料について
 - (3) その他

第14条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

第15条 委員会は、必要に応じて会長が召集する。

- 2 会長は、会議の議長となる。
- 3 会長は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、不可同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 委員会の庶務は、資料館において処理する。

3. 委員名簿

氏名	役職	分野
賀川 光夫	別府大学文学部教授	考古学
加藤 知弘	大分県立芸術文化短期大学教授	日本海外交流史
豊田 寛三	大分大学教育学部教授	日本史
菊竹 淳一	九州大学文学部助教授	日本美術史
段上 達雄	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館主任研究員	日本民俗学
加賀 稔豊	大分市助役	地方行政

寄 贈

考古資料

○ステゴドン象化石 稲積英明氏
昭和24年、大分市加納（元大分市宮火葬場付近）で採集された土砂の中で発見されたステゴドン象の臼歯化石。以前は大分県鉱工課に保管されていたが、保管者の稲積氏が退職されるにあたり寄贈された。

歴史資料

○工藤家文書 一括 工藤矩雄氏
大分市大字関園の工藤家に伝わった江戸時代から明治時代までの古文書と版本・写本一括。工藤家は江戸時代熊本藩の高田手永会所に仕出していたといい、高田手永の村々から手永会所に提出された願書控帳などがある。また、寛政12年（1800）「鶴崎高田手永反別并品々帳」は高田手永各村の田畑面積・石高を列記し、村状況がわかる興味深い資料である。

○大分県旧管内地図 安部克彦氏
美工資料

○刀 大・小 吉田安雄氏
元府内藩士であった吉田家に伝来していた刀。

○久留島武彦 書 大森省作氏
玖珠出身の児童文学者久留島武彦が昭和32年83歳の時に書いた。「山光澄我心」とある。

○薩摩琵琶 後藤タケ子氏
民俗資料

○羽口、四日市人形頭 以上2点 山田芳久氏

○漆器膳一式 大上利宏氏

○はた織り機一式 難波幸男氏

○脇息、香炉 以上2点 稲尾正秀氏

○さお秤2点、分銅、世界文学全集25冊
以上28点 大久保貞女氏

○桶 渡辺憲夫氏

○杵、めぐり棒 以上2点 阿部 強氏

○挟み箱、SPレコード 以上2点 岡本通男氏

寄 託

歴史資料

○後藤碩田関係資料 後藤 進氏
碩田の子孫後藤進氏宅に伝来した関係資料一括。特別展「豊後の博学—後藤碩田」開催を契機に寄託していただいた。詳細については資料調査の項を参照。

美工資料

○十一面観音菩薩立像、四天王立像4体、聖観音坐像、地藏菩薩坐像、釈迦如来坐像、大山寺関係古文書
以上6件 大山寺

大山寺本堂と観音堂にあった仏像群。「府内及び大友関係遺跡総合調査」で確認された。中でも十一面観音立像は平安時代の作と考えられ、保存を考えた館に寄託を受けた。

購 入

歴史資料

○豊後国海部郡竹下村検地帳 5冊 江戸時代
①竹下村田畠検地帳 寛永12年（1635）31.3×22.3cm
②竹下村田畠検地帳 正保4年（1647）30.2×21.9cm
③竹下村田方検地帳 “ 34.4×21.3cm
④竹下村畠方検地帳 “ 34.5×21.4cm
⑤竹下村田高差引願 “ 26.4×21.4cm

江戸時代、熊本藩領だった竹下村（大分市）の検地帳。①寛永検地帳は、前年に熊本藩領全域で作成された「人畜改帳」の関係資料であろうか。②～④の正保検地帳は「正保郷帳」作成のため実施された検地であろう。また、⑤は竹下村役人が損耗のため田高の減免を申請した書類である。

○主図合結記 乾・坤2冊 江戸時代 26.5×19.3cm
江戸時代中期の儒学者山県大武著。全国の城下町絵図と歴代藩主を列記する。原著は1740年代に成立しているが、本書は幕末の写本と考えられる。大分県関係では、中津・杵築・日出・府内・臼杵・岡・日田の各城下町がみえる。

○日本永代蔵 6冊 貞享5（1688）年 26.1×18.1cm
井原西鶴が著した浮世草子。全6冊の内、巻5以外は貞享5年正月刊の森田・金屋二肆版本で、巻5を同年同月刊の森田単独版本で補う。巻3の2に「国に移して風呂釜の大尽」と題して、山弥長者伝説のモデルとなった守田三弥之助こと、府内の豪商万屋山弥を紹介している。

○東遊雑記・西遊雑記 8冊 写本 嘉永元・2年写
23.0×15.9cm

備中国の地理学者古河古松軒が著した紀行文集。西遊雑記は天明3年（1738）九州、東遊雑記は天明8年東北地方から北海道までを旅行した時のものである。庶民風俗・信仰・農具・物産などを記録し、挿し図もある。西遊雑記で、府内城下町を「昔時は大いに繁昌せし所ゆへに城も小ならず」とし、また、国分寺で振る舞われた「ハウテウ」の記録が有名である。

○広益国産考 8冊 版本 刊行年不明
22.3×15.6cm

日田出身の農学者大蔵永常が著した農学書。60種類にも及ぶ商品作物を取り上げ、栽培・加工方法から作物に適した農具、流通過程にまで言及する。初版は安政6年（1859）であるが、本書の奥書には版元名はあるが出版年がなく、数種類残っている刊行年不明本の一つである。

○豊後国風土記 1冊 写本 寛保3年写
26.7×18.7cm

奈良時代に編纂した豊後国風土記を江戸時代、寛保3年（1743）に写したもの。現在70種類以上の写本が

残っているが、本書は永仁5年・文禄4年奥書写本系に属す。

○豊陽志 1冊 写本 万延元年写 23.6×17.5cm
杵築藩の木付春碩が享保6年（1721）に著した豊後の歴史書。鎌倉時代から江戸時代初め、つまり大友22代の歴史から大友氏除国後小藩分立が形成されたところまでの政治史をまとめている。本書は奥書きにより、寛政10年の写本をさらに万延元年（1860）に写した。
○府内藩主松平不騫（近儔）短冊 江戸時代末
35.4×5.1cm

第6代府内藩主松平不騫（近儔・1757—1840）が自作の俳諧を書いた短冊。不騫は俳諧・絵画をよくし、特に俳諧は家臣とたびたび句会を催すなど、数多くの作を残している。

○府内藩主松平氏関係文書 5通 江戸時代
①6代藩主松平近儔書状 16.6×63.9cm
②8代藩主松平閑山書状 16.8×62.2cm
③幕府老中連署状 20.1×55.5cm
④本多忠祥書状 19.6×50.8cm
⑤土屋寅直書状 18.1×47.9cm

府内藩主大給松平氏が国元の家老に宛てた書状と幕府の要人から藩主に宛てられた書状である。

○阿部淡斎 書 江戸時代末 97.8cm×19.8cm
府内藩主の儒学者阿部淡斎（1813—80）の書。淡斎は府内藩主阿部正名の子として生まれ、竹内豊州・広瀬淡窓に学び、府内藩儒となった。のち藩校遊焉館の設立に尽力し、藩医学校長も兼ねた。詩書をよくしたが遺墨は少ない。

○臼杵藩関係文書 3点 江戸時代
①転井類族之書出 1冊 貞享4年 29.0×21.9cm
②御給所田畑石高帳 1冊 天保12年 25.1×17.0cm
③公義江御届破損書付 1通 19.8×52.1cm

①は臼杵藩士吉水藤右衛門が、祖父同藤右衛門がキリシタンだったため、一族の宗旨を曾祖父代まで廻り書き上げた文書。貞享4年（1687）幕府はキリシタン類族制を打ち出し、各藩に類族帳の提出を求めた。本資料は恐らく、臼杵藩が類族帳作成のため藩士に提出させたものであろう。②は海部郡宮内村（大分市）にあった臼杵藩士吉水太郎兵衛の地方知行地について一筆ごとに面積・石高・名請人を書き上げ、同村庄屋が提出した書類である。

○宇佐郡下高家村庄屋文書 238点 江戸時代
江戸時代幕府領であった宇佐郡下高家村（宇佐市大字下高家）の庄屋家に伝えられた文書一括。御用留記田畑高差引帳・年貢米差引帳・宗門改帳など支配・貢租・戸口関係の基本的な村方文書が、18世紀末から19世紀末までほぼ年次順に残っている。

○杵築藩領図 1鋪 天保年間（19世紀前半）

111.3×177.3cm

江戸時代末の杵築藩領全域を描いた絵図。記載様式や図中多くみられる前代の藩領図との地形・領主等の変化を示した付箋から、天保豊後国絵図作製のための下図と考えられる。豊後では幕府撰の国絵図作製のため、まず各藩領図が作られ、それをまとめていた。

○「新大分」第1～9号 明治25年 9点
明治25年に大分町で発行されていた新聞。2月浅香茂明・松木高三郎・水主増吉の3氏により不偏不党・大中至正をモットーに創刊された。月3回の発行予定であったが、あまり守られず、同年5月23日付け第9号で自然廃刊となってしまった。これまであまり紹介されていない同紙が創刊号から最終号まで揃っているのは貴重である。

○「豊州新報」第16・17号 明治29年 2点
「豊州新報」は明治19年それまでの「大分新報」を改称し創刊された。保守官憲主義を唱え、のち政友会大分支部の機関誌的役割を果たす。隔日で発行され、本資料は明治29年4月1日と3日号である。

○西南騒擾襟志 1冊 明治10年 49.8×35.0cm
明治10年2月に始まった西南戦争にあたって、同年2月11日から8月11日までの大分県の対応、警備状況を日記体でまとめた記録。

○明治時代大分県行政資料
①御布令書綴 1冊 明治5年刊 22.2×15.0cm
②大分県農工商統計書 明治36年刊 16.0×11.8cm
③漁業鑑札 13枚 江戸～明治時代 13.4×8.8cm

明治時代の県政に関する資料。①は明治5年5月から10月に県が出した布告書をまとめて出版したもの。②は大分県内務部が編集した明治35年の農工商業統計書。③は南海部郡西中浦村（鶴見町）の漁民が得ていた漁業許可鑑札である。

○大正時代大分の産業関係資料 4点
①大分県案内 1冊 大正10年 16.8×10.1cm
②九州沖繩八県連合共進会案内 1冊 大正10年
19.8×13.0cm

③東国東郡七島蘭立毛品評会成績 1枚 大正13年
18.2×42.2cm
④大坪式製繩器械類引札 1枚 大正8年
26.8×38.4cm

①②は大正10年大分市で開催された九州沖繩八県連合共進会にあわせて出版された。①は大分県の交通・産業・教育などの概況をまとめる。②は総合パンフレット。③は大正13年東国東郡農会が主催した七島蘭の作柄品評会成績一覧。各農家ごとに一坪あたりの作柄を上・屑・病の3段階で評価している。④は中津・小田部礼蔵商店が出した大坪式製繩機の新発売広告。

○羽田村字図 1綴 明治時代 55.5×32.0cm

